

香料添加バリウムの使用経験

- 受診者にやさしい検査を目指して -

一般財団法人 仙台厚生病院 放射線部 ○熊坂 江里子 (Kumasaka Eriko)

川崎 将 岩谷 佳美 塚原 真人 鈴木 新一 太田 久恵 山田 文夫 加賀 勇治

一般財団法人 仙台厚生病院 健康管理センター 坂東 ゆかり

【はじめに】

当院は職域検診者を対象とした上部消化管造影検査において、バリウムに対する受診者の不安を少しでも解消できるよう、『やさしい検査の工夫』に日々取り組んでいる。しかし、受診者がバリウムや発泡剤の服用に抵抗を感じる場面に度々遭遇することがあった。

【目的】

受診者がバリウムに対する抵抗を少しでも軽減するため、今年度より希望者に香料を添加したバリウム(以下エッセンスバリウム)の提供を始めた。エッセンスバリウムを飲用した受診者を対象にアンケートを実施し、集計結果からエッセンスバリウムに対するの評価について検討したので報告する。

【エッセンスバリウム概要】

エッセンスの種類は10種類(レモン、グレープフルーツ、オレンジ、アップル、ストロベリー、ピーチ、バナナ、ブルーベリー、サイダー、コーヒー)である。エッセンスを希望する受診者は、検査前に10種類のエッセンスの中から1つ選択する。

エッセンスバリウムの作成方法です。まずエッセンスを混入前にバリウムを良く攪拌する。次に0.3mlディスポーザブルピペットで香りが強いエッセンスは0.1ml吸い出し、香りが弱いエッセンスは0.2ml吸い出し、バリウムに混入する。エッセンスはごく少量なため、風味が消えないようバリウムを軽く振って、発泡剤とともに受診者に手渡し、検査を施行する。ピペットは、エッセンスの匂いが染み付くため1回の使用で破棄する。

【方法】

平成25年4月～7月の上部消化管造影検査受診者1,234名中、エッセンスバリウムを希望した逐年受診者210名(17%)に対しアンケートを実施した。アンケート内容は、①エッセンスバリウムを希望した理由、②バリウムが苦手な理由、③飲みやすさ、④次回も加えたいか、⑤希望したエッセンスの種類(5項目)で、それぞれ記述式か選択式で回答を求めた。アンケート集計後、各項目で分類し、受診者の意識傾向について検討を行った。

【結果】

エッセンスバリウムを希望した210名のアンケート回収率は100%であった。アンケート項目については①エッセンスバリウムを希望した受診者の理由が、バリウムが苦手(49%)、エッセンスバリウムへの興味(47%)の順に多かった。②バリウムが苦手な理由は、味(48%)、食感(32%)、飲む量(14%)、匂い(7%)が苦手の順となり、硫酸バリウム特有である味と食感に偏ったと考えられた。③エッセンスバリウムを飲んだ感想は、とても飲みやすい(32%)、まあまあ飲みやすい(56%)、普通(10%)、やや飲みにくい(1%)、とても飲みにくい(0.5%)で、受診者の8割以上から好評価を得た。④次回もエッセンスを加えたいと回答した受診者は93%で、どちらでもないと回答したのはわずか6%であった。⑤選ばれたエッセンスの使用順の結果は、香料の中で、柑橘系とストロベリーを選んだ受診者は合わせて7割以上を占めた。これらは食品添加物に使用される機会が多いため、香りのイメージが付きやすいのでエッセンスの上位を占めたと考えられた(Fig.1)。

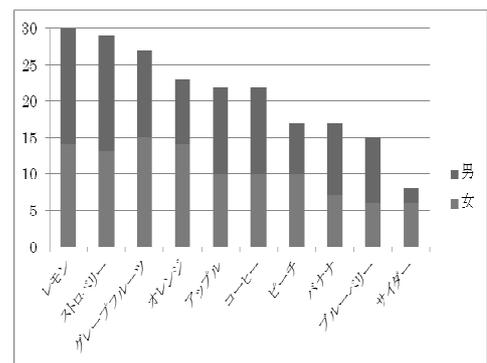


Fig.1 選ばれたエッセンスの種類

【考察】

エッセンスバリウムを選んだ受診者にバリウムのイメージを飲みやすいというイメージに変えることで、その苦手意識を低減させることができると考えられる。そのために、10種類のエッセンスを選ぶ楽しさと、香り付けなどを工夫し、楽しく飲みやすくすることが大切である。

今回のエッセンスバリウムの提供によって、受診者へやさしい検査の工夫ができた。今後、エッセンスを積極的に活用し、普及に努めたい。